

# 伸・魅力通信

## 袋井あやぐも学園のゴールの姿を確かめた異校種体験

3人の小学校の先生方が、袋井中学校で異校種体験を行いました。そのときの感想を紹介します。



### 袋井北小学校 笹瀬太郎 教諭

職員室では、各学年の目標が掲示物によって視覚化され、常に確認ができることが素晴らしいと思いました。学校は、非常に静かで落ち着いた環境でした。黙想が始まった時に、校内全てが一斉に静かになることには驚きました。日々の声掛け、指導のたまものだと感じました。また、清掃も同様で、7分という時間を余らせるほどの手際の良さは凄いと思いました。授業では、**ICTの積極的な活用**がされていて、Why や how の学習課題を設定し、職員が共通して実践しようとする意識を感じました。

袋井あやぐも学園のゴールの姿を見ることができ、とても勉強になりました。

## 袋井北小学校 野崎翼 教諭

小学校を担任している、中学生がとても大人に見えました。ICT機器の活用の観点では、小学校より「学びの道具」として活用できていると感じました。国語で長文を考えるとき、美術で描きたいポーズを写真に撮っているとき、理科で呼吸について調べてまとめるとき、生徒も教師も効果的な使い方だと理解して学びを深めているように感じました。この使い方を見据えて1年生と一緒に、タブレットを使っていこうと思いました。

## 袋井西小学校 有川可菜 教諭

私はまだ、高学年を担任したことがないので、授業の中でピンポイントにここが小学校とつながっているというのはわかりませんでした。とても落ち着いた雰囲気の中で学習に取り組んでいる姿を見て、小1の担任としてきちんと椅子に座って学習に取り組めるようにすることはとても大切だと感じました。自分の考えを書いたり、必要な情報を自分で抜き出してまとめたりという活動が中学生できちんとできるようにするためにも、小学校のうちに自分の考えを伝えたり、自分でまとめたりする活動をたくさん取り入れていきたいと思いました。

3人の先生方は、小学校の児童の姿と中学校で学ぶ生徒の姿をつなげて考えていました。ギガスクール構想により、授業でICTを活用する場面は中学校でも急増しています。このような中、**情報モラルの育成が喫緊の課題**になっています。小中で連携してICTを効果的に活用する力を育成するとともに、小学校の力を借りながらこの課題を乗り越えて行ければと思います。